

# 徳島県地域包括ケアシステム学会 市民講座

令和2年  
日時 **2月22日 土**  
午後2:00～午後4:30

場所 **徳島グランヴィリオホテル**  
1F グランヴィリオホール  
徳島県徳島市万代町3-5-1

## 開催趣旨

徳島県は多くの過疎地域、限界集落を抱え、地域創生、地域の生活と健康をどのように守るかが大きな問題である。しかし現実には、地域社会とそれを支える基盤の消滅が進んでいるのは紛れもない事実であり、徳島大学歯学部がフィールド研究に協力している木屋平地域はまさしくこれに直面している。今回、全く見方を変えて、2つの異なった観点から、我々の地域社会の生活と健康を考えたい。一つは無理に創生するのではなく、逆に限界集落から消滅へと円滑に軟着陸をさせる「地

域の看取り」という考え方である。もう一つは、限界集落、地域社会の主だった構成員である高齢者の立場ではなく、将来世代になりきって、将来を考えるフューチャー・デザインの考え方である。

これら2つの新しい考え方を学び、みんなで2040年問題、超高齢社会の地域の生活と健康をどう守るかを考えたい。

徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授 **市川 哲雄**

## プログラム

2:00～2:10

### 開催の趣旨説明

市川 哲雄 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授)

2:10～3:10

基調講演 座長/永廣 信治 (吉野川病院長、徳島大学 名誉教授、徳島県地域包括ケアシステム学会 理事長)

### 「フューチャー・デザイン:持続可能な 自然と社会を将来世代に引き継ぐために」

西條 辰義 (総合地球環境学研究所 特任教授・PD/  
高知工科大学フューチャー・デザイン研究所 所長)

3:15～4:30

パネルディスカッション 座長/市川 哲雄 コメンテータ/西條 辰義

### 地域を看取るとは

#### 「人や社会に寄りそう未来型包括ケア

—地域のみとりを考える—

白山 靖彦 (徳島大学大学院 教授)

#### 「地域社会に対する終末期ケア」

佐藤 春華 (ムラツムギ 副代表)

#### 「思いのある人が集う地域医療の拠点として

～いかなる時も地域とともに～

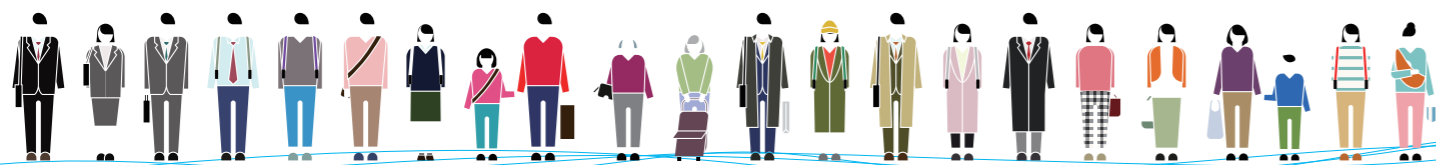
藤原 真治 (木屋平診療所 所長)

4:30

### 閉会

※ 令和元年度徳島県地域医療介護総合確保基金(介護分)の助成を得て実施しています。

主催/徳島県地域包括ケアシステム学会 共催/徳島大学病院・徳島大学歯学部 後援/徳島県・徳島新聞





## フューチャー・デザイン： 持続可能な自然と社会を将来世代に 引き継ぐために

略  
歴

**西條 辰義** さいじょう・たつよし

総合地球環境学研究所プログラムディレクター・高知工科大学フューチャー・デザイン研究所所長。

1952年香川県生まれ。ミネソタ大学大学院経済学研究科修了。Ph.D.（経済学）。オハイオ州立大学、カルフォルニア大学サンタバーバラ校、ワシントン大学、筑波大学、大阪大学、一橋大学、カルフォルニア工科大学、UCLA等を経て現職。

専門はフューチャー・デザイン、制度設計工学、実験経済学。2014年から日本学術会議会員、2007-13年文部科学省・特定領域「実験社会科学」領域代表者、2010-14年国際学会 Economic Science Association 副会長等を務める。

私たちは、気候変動の激化や、生物多様性の崩壊、政府債務の膨張など、解決に非常に長い時間がかかる問題に直面しています。例えば、気候変動においては、2018年10月、国連気候変動に関する政府間パネル(IPCC)より、人間と自然生態系が持続可能であるためには、産業革命前の1.5度以内の気温上昇に抑え、2050年頃までに二酸化炭素の排出量をゼロにする必要がある、とのレポートが提出されました。もはや猶予はなく、最後通牒といえる内容です。

現代のみならず、将来世代にまで影響を及ぼす長期にわたる問題が解決しがたいのは、私たちの社会の基本的な二つの柱である「民主制」や「市場」に起因するのではないのでしょうか。皆さんの中で、次の徳島市長選に出馬し、私が当選すると化石燃料を使った乗り物は使用禁止、などという政策を掲げると、きっと当選しないでしょう。また、将来世代は今の市場でお金を持っていないので、将来世代は残して欲しい資源を確保できません。つまり、これらの仕組みは、今の世代のための仕組みであって、将来世代を取り込む仕組みではありません。

それでは、持続可能な社会と自然を将来世代に残すには、どのような社会の仕組みをデザインしたらよいのでしょうか?民主制や市場のあり方を再考し、将来世代を取り込む仕組みのデザインとその実践を目指して誕生したのが「フューチャー・デザイン」です。フューチャー・デザイン(FD)は、2012年に始まって以来、いくつかの大学で研究が進み、いくつかの地方自治体での取り組みが始まっています。

FDの基本コンセプトの一つが「将来可能性」です。親が自分の食べ物を減らし、それを子供に与えることで、親は空腹であってもしあわせを感じるでしょう。これを血縁関係のない将来の人々にも伸ばせないのか、というのが将来可能性です。つまり、今の利得が減っても、それが将来世代を豊かにすることになるのなら、そうすることがその人をしあわせにする、というのが将来可能性です。荒唐無稽と思われるかもしれませんが、仮想将来世代、仮想将来人を今の民主制に取り込むことで、無理なく、人々の将来可能性をアクティブにできることを発見しつつあるのです。将来可能性をアクティブにすることで、今に縛られることなく、これまでとは全く異なったアイデアで地域の未来を描くことができるのです。今日はそのような取り組みのいくつかをご紹介します。



徳島大学大学院  
医歯薬学研究部  
地域医療福祉学分野 教授

**白山 靖彦**

## 人や社会に寄りそう未来型包括ケア —地域のみとりを考える—

高齢化、人口減少、そして地域の消滅。この流れは、堰を切ったダムのように誰も止めることはできない。できることは、人々に自分の住まう地域をより深く知ってもらい、その未来について真剣に考えてもらうことである。人間は、よく時間を割り引く。たとえば、今日1,000円もらうのと、1年後に1,100円もらうのと、どちらを選択するかと言えば、多くは今日1,000円もらう方を選ぶ。これは、地域の未来を考える上でも同じであり、人口推計をいくら提示しても、本当にその時がくるまでは、動かないし動けないということを想定しておかなければならない。未来型包括ケアとは、こうした人間の特性を踏まえた地域のみとりの考え方である。



ムラツムギ 副代表

**佐藤 春華**

## 地域社会に対する終末期ケア

東京都内の療養型病院で看護師として「終末期医療」に触れ、“最期”に向き合うことの重要性に気付く。その後、京都府綾部市にて地域おこし協力隊を務める。病院で「もうすぐ亡くなるかもしれない方々のケア」をしながら「どうよりよい最期を迎えるか」を考える日々と対照的な、「もうすぐなくなるかもしれない集落」と関わりながらも「どうよりよい集落の未来を迎えるか」を議論する機会がなく葛藤を味わう。そんな中、全国各地に同じ感覚を持つ仲間がいることに気づき、「ムラツムギ」(“まち”の終活を考え展開する組織)を立ち上げ、“地域活性化以外のアプローチ”のあり方の様々な方法を創るべく活動中。



美馬市国民健康保険  
木屋平診療所 所長

**藤原 真治**

## 思いのある人が集う地域医療の拠点として ～いかなる時も地域とともに～

美馬市木屋平(旧・木屋平村)は、剣山の北側に広がる過疎山村です。地域は、住民の6割が65歳以上で、人口は町村合併からの10数年間に4割減少して今年度初めには600人を割り込みました。住民同士の助け合いも困難になりつつあります。一方で、高齢者人口そのものの減少に伴い、他地域では当たり前のように受けられる保健・医療・介護サービスが縮小の対象とされています。

今後、高齢者の健康と生活を支える仕組みの維持を工夫しながら、さらなる縮小と消滅が迫る地域の将来に向かい合い、様々な方と協働しつつ地域に添った活動をしていきたいと考えています。